資料５－２

安全・安心な市民生活の確保

1	下水道施設の改築・修繕	施策評価	A
取り組みの方向性	●下水道施設の老朽化による道路陥没や排水不良など、市民生活へ重大な影響を及ぼさないよう、維持修繕基準に基づき日常的な維持管理及び、計画的な下水道施設の点検・調査や改築・修繕などの老朽化対策を進めます。また、雨天時浸入水などを原因とする降雨時の汚水量増加の問題について、その対策に取り組みます。	評価理由 日常的な維持管理を行い、老朽化対策などの取組を着実に進めているため、評価を「A」としました。	

指標

指標名		R3年度末（基準）	前々年度実績値	前年度実績値	R7年度実績値	目標値（R10）	評価	説明
1-(1)	ポンプ設備整備実施率（%）（雨水）	14.6	16.7	20.8	20.8	29.2	4	整備対応ポンプ設備数／雨水ポンプ場のポンプ設備数×100
1-(2)	管路調査点検実施率（%）（汚水）	48.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	調査点検の実施延長／ストックマネジメント計画（短期計画）の延長×100
1-(3)	ポンプ棟（建築物）の改築・修繕実施率（%）（雨水・汚水）	6.7	6.7	26.7	60.0	73.3	4	改築・修繕実施数／雨水・汚水ポンプ棟の総数×100
						（指標評価 平均値）	4	

具体的取組

取組内容		R7年度 目標 R7年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
1-①	下水道施設の点検・調査結果等に応じて下水道ストックマネジメント計画を修正します。（雨水・汚水）	下水道施設の点検・調査の結果にあわせて、必要に応じて対策工事等の計画を追記修正します。 今年度は対策工事等の計画について、追記修正を行う必要はありませんでした。	4	4	4
1-②	下水道ストックマネジメント計画に基づく雨水ポンプ場のポンプ設備の整備に取り組みます。	R7年度については、ポンプ整備に係る実施設計及び工事の実施はありませんが、耐震化工事や受変電設備工事と調整を行い、整備時期の調整を行います。 藤本川ポンプ場３号ポンプ整備の検討・調査を行いました。 R7年度末の累積実績はR6年度と変わらず、48台中10台整備完了でした。（実施率：20.8%）	4	4	4

1-③	下水道ストックマネジメント計画に基づく汚水管路の計画的な点検、調査に取り組みます。	出口2丁目地区他において、点検約114㎞、調査約11kmに取り組みます。 出口2丁目地区他において、点検約124㎞、調査約24kmに取り組みました。	4	4	4
1-④	下水道ストックマネジメント計画に基づく下水道施設（汚水）の計画的な改築に取り組みます。	楠葉並木地区他において、約225mの管更生工事を行います。 楠葉並木地区他において、約229mの管更生工事を行いました。	4	4	4
1-⑤	下水道施設（雨水）の維持管理による機能維持と浸水の防除に取り組みます。	週1回、雨水大ポンプ場（北部ポンプ場、藤本川ポンプ場、安居川ポンプ場、新安居川ポンプ場、溝谷川ポンプ場）の点検を実施します。 雨水大ポンプ場の点検を週1回(毎週火曜日を基本)実施しました。	4	4	4
1-⑥	下水道ストックマネジメント計画に基づく雨水・汚水ポンプ棟（建築物）の改築・修繕に取り組みます。	黒田川ポンプ場の建築物の老朽化対策工事に着手します。（黒田川ポンプ場はR7～R9の3か年事業） 5施設（北部ポンプ場（R6からの継続実施）、サダポンプ場、藤本川ポンプ場、犬田川ポンプ場、出口汚水中継ポンプ場）の建築物の老朽化対策工事を行います。 （R7年度：5施設、累計：全15施設中9施設対策完了予定、ポンプ棟（建築物）の改築・修繕実施率60.0%） 黒田川ポンプ場の建築物の老朽化対策工事に着手し、R9年度に完成する予定です。 サダポンプ場、藤本川ポンプ場、犬田川ポンプ場、出口汚水中継ポンプ場の老朽化対策工事が完了しました。北部ポンプ場については、３期工事の内、２期工事まで完了しました。 R7年度末時点で、雨水・汚水ポンプ場全15施設中9施設対策完了しました。（改築・修繕実施率：60.0%）	3	3	4
				（具体的取組達成状況 平均値）	4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

安全・安心な市民生活の確保

2	下水道施設の耐震化	施策評価	A
取り組みの方向性	●地震時も下水道の機能が確保できるよう、被災による影響が大きい緊急輸送路などに埋設されている管渠や軌道・河川を横断している管渠及びポンプ場などの重要な施設から計画的に耐震化を進めます。	評価理由 汚水管路及び雨水ポンプ場共に、一部繰越ましたが、おおむね順調に耐震化をすすめられているため、評価を「A」としました。	

指標

指標名		R3年度末（基準）	前々年度実績値	前年度実績値	R7年度実績値	目標値（R10）	評価	説明
2-(1)	ポンプ場の耐震化率（%）（雨水・汚水）	19.5	26.0	39.0	42.9	85.7	4	耐震性を有するブロック数/ポンプ場内ブロック数×100
						（指標評価 平均値）	4	

具体的取組

取組内容		R7年度 目標 R7年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
2-①	下水道総合地震対策計画に基づく汚水管路の耐震化を実施します。	牧野阪1丁目地区他で耐震診断を実施します。また、耐震化工事に向けた実施設計を行います。 牧野阪1丁目地区他で耐震診断に着手しましたが、繰越となりました。	4	4	3
2-②	下水道総合地震対策計画に基づく雨水ポンプ場の耐震化を実施します。	サダポンプ場、藤本川ポンプ場、犬田川ポンプ場、黒田ポンプ場でポンプ棟の耐震化工事を、安居川ポンプ場、溝谷川ポンプ場、北部ポンプ場、サダポンプ場、藤本川ポンプ場で土木構造物の耐震化工事を行います。サダポンプ場（湛水ポンプ場）、犬田川ポンプ場の耐震診断（非線形解析）を実施し安全性の確認を行います。 （R7年度：5ブロック、累計：全77ブロック中35ブロックの耐震性能の確保、耐震化率45.5%） サダポンプ場、藤本川ポンプ場、犬田川ポンプ場のポンプ棟の耐震化工事を実施しました（3ブロック）。また、安居川ポンプ場、溝谷川ポンプ場、北部ポンプ場、サダポンプ場、藤本川ポンプ場は、R7年度に工事着工し、引き続き取り組んでいます。 R7年度末の累積実績で、77ブロック中33ブロックの耐震性能を確保しました。（実施率：42.9%）	3	5	3
				（具体的取組達成状況 平均値）	3	

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

安全・安心な市民生活の確保

３	浸水被害の軽減	施策評価	A
取り組みの方向性	●計画降雨に対応する雨水整備を進めるとともに、近年の気候変動等に伴う降雨の集中化・激甚化を要因とした内水の氾濫による浸水被害からまちを守るため、計画降雨を超える集中豪雨や局所的な浸水に対して、地域の特性を踏まえた浸水対策や雨水流出抑制施設の設置などを進めます。	評価理由 浸水対策工事は繰越ましたが、おおむね順調に浸水被害の軽減の取組を実施しているため、評価を「A」としました。	

指標

指標名		R3年度末（基準）	前々年度実績値	前年度実績値	R7年度実績値	目標値（R10）	評価	説明
3-(1)	浸水地区の整備率（%）	54.4	56.2	56.9	56.9	60.0	4	対策済地区数／全対策予定地区数×100
						（指標評価 平均値）	4	

具体的取組

取組内容		R7年度 目標 R7年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
3-①	浸水対策地区の浸水対策を実施します。	南楠葉地区の浸水対策工事を実施します。 南楠葉地区で浸水対策工事に着手しましたが、他企業との工程調整により繰越となりました。	4	4	3
3-②	雨水貯留施設の確保に取り組みます。	浸水被害軽減のため、特定都市河川浸水被害対策法及び公共・公益施設における雨水流出抑制施設設置指導要綱に基づく指導や開発者への協力依頼により、貯留施設の確保を図ります。 特定都市河川浸水被害対策法に基づく開発者への指導により、870㎥の貯留施設を確保しました。また、その他、開発者の協力により、76㎥の貯留施設を確保しました。	4	4	4
				（具体的取組達成状況 平均値）	3		

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

水環境の保全

4	環境負荷の低減	施策評価	A
取り組みの方向性	●本市の下水道は整備当初から汚水の処理と雨水の排除というそれぞれの目的に沿った分流式を採用しており、今後も、合流式よりも環境にやさしい分流式下水道により整備を行います。	評価理由 指標は、R10年度目標値を達成していますが、上下水道局が実施している工事以外の要因もあり、また一部R8年度に繰越したため、評価を「A」としました。	

指標

指標名		R3年度末（基準）	前々年度実績値	前年度実績値	R7年度実績値	目標値（R10）	評価	説明
4-(1)	下水道処理人口普及率（%）	97.5	97.8	97.9	98.0	97.8	4	処理人口／行政人口×100

（指標評価 平均値） 4

具体的取組

取組内容		R7年度 目標 R7年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
4-①	分流式の下水道整備を進めます。	野村中町地区他全3地区において、公共下水道工事を行います。 東香里2丁目地区他全3地区において、695.5mの公共下水道工事を実施しました。他企業との工程調整により野村中町地区は繰越となりましたが、東香里2丁目地区他全2地区において公共下水道への接続が可能となりました。	4	3	3

（具体的取組達成状況 平均値） 3

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

水環境の保全

5	適正処理の推進	施策評価	A
取り組みの方向性	●生活排水の適正処理を推進するため、水洗化義務期限内の水洗化に向けて取り組むとともに、期限を超過した家屋に対しては下水道の使用に向けた指導勧告を進めます。	評価理由 指標は、R6年度にR10年度目標値を達成していますが、水洗化件数の大幅な増加はなかったため、評価を「A」としました。	

指標

指標名		R3年度末（基準）	前々年度実績値	前年度実績値	R7年度実績値	目標値（R10）	評価	説明
5-(1)	水洗化率（%）	97.5	97.8	98.0	98.1	98.0	4	水洗化人口/処理人口×100
						（指標評価 平均値）	4	

具体的取組

取組内容		R7年度 目標 R7年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
5-①	水洗化率の向上に取り組みます。	水洗化（改造）義務期限の3年を超えた未水洗家屋の実態調査、指導勧告を引き続き行います。また、供用開始後3年以内の家屋所有者に対しても、法に定められた義務期限内の水洗化工事を促進するため、補助・融資あっせん制度を説明した通知文書を送付します。 R3年度に供用を開始し、R7年度に新たに義務期限を超えた未水洗家屋39戸について、訪問のうえ個別に水洗化指導を行い、その後も工事を実施されない場合は2度にわたって勧告文書を送付しました。その結果、16戸の家屋で水洗化工事を実施されました。また、これまで指導により蓄積してきた未水洗家屋のデータを活用して、指導効果が見込める家屋を絞り込むことにより、効率的な水洗化指導を進めています。なお、供用開始後3年以内の未水洗家屋所有者に対しては、補助金・融資あっせん制度を説明した文書を送付するなど、義務期限内の水洗化に向けて積極的に取り組みました。	4	4	4
					（具体的取組達成状況 平均値）		4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

快適な生活環境の創造

6	汚水整備	施策評価	A
取り組みの方向性	●住居系地域の汚水整備は概成しましたが、引き続き市内に点在する未整備地区について汚水の整備を進めていくことにより、公衆衛生を向上させ、快適な生活環境を創造します。	評価理由 指標は、R10年度目標値を達成していますが、上下水道局が実施している工事以外の要因もあり、また一部R8年度に繰越したため、評価を「A」としました。	

指標

指標名		R3年度末（基準）	前々年度実績値	前年度実績値	R7年度実績値	目標値（R10）	評価	説明
6-(1)	下水道整備人口普及率（%）	97.5	97.8	97.9	98.0	97.8	4	整備人口／行政人口×100

（指標評価 平均値） 4

具体的取組

取組内容		R7年度 目標 R7年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
6-①	分流式の下水道整備を進めます。	野村中町地区他全3地区において、公共下水道工事を行います。 東香里2丁目地区他全3地区において、695.5mの公共下水道工事を実施しました。他企業との工程調整により野村中町地区は繰越となりましたが、東香里2丁目地区他全2地区において公共下水道への接続が可能となりました。	4	3	3

（具体的取組達成状況 平均値） 3

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

快適な生活環境の創造

7	雨水整備	施策評価	A
取り組みの方向性	●人命や財産を守り、交通などの都市機能を確保するため、計画降雨に対応する雨水整備を進め、安心して生活できる環境を創造します。	評価理由 R7年度は繰越工事となりましたが、計画降雨に対応する雨水整備をおおむね計画通りに取り組んでいるため、評価を「A」としました。	

指標

指標名		R3年度末（基準）	前々年度実績値	前年度実績値	R7年度実績値	目標値（R10）	評価	説明
7-(1)	主要な幹線管渠の整備率（%）	46.3	46.3	46.3	46.3	46.9	4	整備延長/計画延長×100

（指標評価 平均値） 4

具体的取組

取組内容		R7年度 目標 R7年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
7-①	下水道計画に基づく雨水整備を進めます。	藤阪元町地区で雨水管整備工事を行います。 藤阪元町地区で雨水管整備工事に着手しましたが、他企業との工程調整により繰越となりました。	4	4	3

（具体的取組達成状況 平均値） 3

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

下水道事業を持続するための基盤づくり

8	財政基盤の強化	施策評価	A
取り組みの方向性	●下水道事業を効率的かつ継続的に提供するため、将来予測に基づいた投資計画や財政計画を適切にマネジメントすることで、経営の健全化と経営基盤の強化に取り組みます。 ●将来の使用水量の減少を見据えた使用料体系を実現し、健全かつ持続可能な事業運営を行うため、総括原価に基づく使用料制度の構築に向けた見直しを定期的に実施します。 ●下水道サービスの提供にあたっては、社会環境の変化により多様化するお客さまニーズを的確に把握するとともに、サービス提供コストが下水道使用料に与える影響を考慮し、判断していきます。 ●汚水事業の新規整備にあたっては、事業効果を含めて慎重に判断しながら実施します。 ●下水処理水の再利用については、事業手法や費用対効果も含めて検討し、事業のあり方を見直します。	評価理由	企業債発行の抑制など、財政基盤の強化に向け順調に取組を進めているため、評価を「A」としました。

指標

指標名		R3年度末（基準）	前々年度実績値	前年度実績値	R7年度実績値	目標値（R10）	評価	説明
8-(1)	企業債残高対使用料収益比率（%）	587.4	491.8	449.5	407.4	452.4	4	企業債残高（公的負担分除く）／下水道使用料×100
						（指標評価 平均値）	4	

具体的取組

取組内容		R7年度 目標 R7年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
8-①	企業債発行額を抑制します。	事業に対する補助金等の財源確保に努め、企業債発行を抑制します。（R7年度指標計画値：461.9%） 整備・改良に対し、国費・工事負担金等財源を最大限確保し、企業債の発行を抑制しました。また、雨水事業の実施にあたっては、一般会計債である緊急自然災害防止対策事業債 348百万円を活用し、一般会計繰出金の財源となる交付税の確保にも取り組みました。 企業債発行額 / 事業費 充当率 R7年度 881百万円/1,854百万円 47.5% R6年度 1,154百万円/2,004百万円 57.6% その結果、R7年度指標計画値461.9%を下回り、407.4%でした。	4	4	4
8-②	国等の補助制度の活用に取り組みます。	事業実施において社会資本整備総合交付金や防災・安全交付金等の補助制度を活用します。 汚水整備、浸水対策、地震対策、ストックマネジメントの各事業に国の交付金(2.3億円)を活用しました。	4	4	4

8-③	総括原価の算定に向けて社会経済情勢を踏まえた収支計画の策定準備に取り組みます。	毎年度の決算状況等を踏まえ、下水道使用料の適正水準について引き続き検討を行います。 ・現在の料金による状況を確認しました。 使用料単価 汚水処理原価 単年度収支 R7年度 149.75円 149.95円 1,505百万円 R6年度 149.37円 150.51円 1,498百万円 ・単年度収支は、R6年度と比較して約6百万円増加しました。 ・R7年度実績及び物価高騰等の影響をR8年度予算に反映しました。 ・R7年度については、計画値を上回る純利益を計上しました。 ※毎年度の決算を踏まえ、使用料改定に向けた総括原価の算定については次期経営戦略策定時に行います。	4	4	4
8-④	下水道使用料改定の必要性の検討に向けた有収水量や使用量収益の動向を把握します。	水需要の動向について、調定水量や調定金額に基づき、把握分析します。 各月の調定水量や調定金額について、前年同月との比較などモニタリングを実施しました。月によってばらつきがあり、昨年度と同様に前年比で調定水量は減少したものの、調定金額については、若干増加となりました。	4	4	4
8-⑤	下水道使用料改定の必要性について検討していきます。	下水道使用料改定の必要性について検討します。 下水道使用料の改正の必要性について、現行制度による経費回収状況の把握を行いました。	4	4	4
8-⑥	汚水の新規整備については、新たな技術も検証し、事業効果を含めた慎重な検討をしながら取り組みます。	地元からの要望状況や事業効果を含めた検討を行い、野村中町地区他全3地区において、公共下水道工事を行います。 地元からの要望状況や事業効果を含めた検討を行い、東香里2丁目地区他全3地区において、公共下水道工事を実施しました。他企業との工程調整により、野村中町地区は繰越となりましたが、東香里2丁目地区他全2地区において公共下水道への接続が可能となりました。	4	3	3
				（具体的取組達成状況 平均値）	4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

下水道事業を持続するための基盤づくり

９	運営基盤の強化	施策評価	A
取り組みの方向性	●維持管理の時代に適した人（人材）・モノ（施設）・カネ（財源）が一体となったアセットマネジメントや、適切な被害想定にもとづく防災・減災を推進するという考え方の下、ハード・ソフト対策を組み合わせた非常時のクライシスマネジメントなどを確立していきます。 ●今までの考え方や取組にとらわれない業務の再編や執行の効率化等、検証や見直しによる経費の抑制を行い、持続可能な事業運営に取り組みます。 ●人材育成や技術継承はもとより、組織力強化のために業務に精通する専門性の高い職員を適切に配置できる体制を継続します。 ●公民連携、広域化・共同化などの新たな手法に取り組みます。	評価理由	単年度目標を達成できなかった施策が一部ありましたが、運営基盤の強化に向け、各種施策の取組が実施されているため、評価を「A」としました。

指標

指標名		R3年度末（基準）	前々年度実績値	前年度実績値	R7年度実績値	目標値（R10）	評価	説明
—	—	—	—	—	—	—	—	—

具体的取組

取組内容		R7年度 目標 R7年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
9-①	戦略的かつ円滑な事業運営の推進を図るため、必要に応じて組織の再編を行います。	現体制の執行状況を踏まえ、必要に応じて対応していきます。 必要性を検討した結果、R7年度につきましては、機構改革は実施しませんでした。	4	4	4
9-②	各種下水道計画の見直しを検討します。	事業の進捗に合わせ、必要に応じて各種計画の見直しを実施します。 今年度は各種計画の見直しを行う必要はありませんでした。	4	4	4

9-③	災害対策や危機事象に迅速に対応できる体制を確立します。	・災害に備えたシステム等の研修を実施します。 ・大規模災害等の危機事象に備えて、日頃からデジタルMCA無線（携帯局28台）の活用を図ります。 ・危機事象に対して、迅速かつ適切な対応を図るため、局の危機管理マニュアルや災害時初動マニュアル等を活用した訓練を行います。 ・市民等からの土のう要請に対し、迅速な配付を行います。	4	4	4
		・災害に備えたシステム等の研修（計6回）を実施しました。 ・大規模災害等の危機事象に備えて、月1回局内の連携訓練や、その他現場からの通信テストなどデジタルMCA無線（携帯局28台）の活用を図りました。 ・危機事象に対して、迅速かつ適切な対応を図るため、局の災害関係のマニュアルを改訂するとともに、それに基づく設営訓練を実施しました。 ・危機事象に対する災害時初動マニュアルを改訂し、本マニュアルの携帯版を局全職員に配付するとともに、全課に各部署の役割を記載したチェックリストを掲示しました。また、市長部局と連携した図上訓練において、初動マニュアルの活用を図りました。 ・市民等からの土のう要請6件に対し、252袋の配付を行いました。			
9-④	災害用備蓄品の適切な管理を行います。	大雨等の災害事象に備え、土のうの適正な保管数（1,800袋）を維持するため、土のう作成を行います。	4	4	4
		災害事象に備え、2,320袋の土のうを保管しました。			
9-⑤	近隣市や事業者との応援協力体制を確立します。	災害協定の締結拡充に向けて、関係機関と協議・検討を行います。	4	4	4
		災害協定の締結拡充に向けて、北河内7市広域化・共同化検討会において、他市の状況確認を行い、今後の協定締結に向け、協議・検討を行いました。			

9-⑥	適正に予算を編成するとともに執行を管理します。	物価高騰等の社会情勢を踏まえ、適正な予算編成と執行管理を行います。 ・人口減少をはじめ、節水意識の浸透や節水機器の普及などライフスタイルの変化により水需要の減少傾向が続く中、事業の必要性及びその財源について検討を行いました。 ・更新を予定している施設については、更新するまでの機能維持に必要な最低限の修繕を行うこととし、施設の更新にあたっては、国庫補助金の活用を前提とした事業実施の検討を行うこととするとともに、幅広い財源確保に努めました。 ・新たな整備事業を決定するにあたっては、事業の目的や優先順位に加えて、その事業により発生する減価償却費や維持管理費と、得られる収入を比較した上で、事業実施を検討し、事業決定を行いました。 ・物価高騰や金利上昇による支払利息の増加など、想定できる経済状況の変化を織り込んだ予算編成を行いました。	4	4	4
9-⑦	下水道使用料等の債権の徴収強化を行います。	納期限を経過した下水道使用料等について、電話催告、訪問徴収等を行うとともに、滞納状況に応じて弁護士名を記載した催告や滞納処分等の法的措置に取り組み、徴収率の向上に努めます。 納期限を経過した下水道使用料等について、電話催告、訪問徴収等を行うとともに、滞納状況に応じて弁護士名を記載した催告や滞納処分等の法的措置に取り組み、徴収率の向上に努めました。 （R7年度実績 99.51%（R8年5月末時点））	4	4	4
9-⑧	保有資産の有効活用に取り組みます。	これまで応募のなかったマンホール蓋に加え、R6年度末で契約を満了した3箇所についても新規広告掲載を募集します。 R２年度から広告事業を展開しており、前年度からの推移は下記の通りです。 ①契約実績：４社→２社（R６年度末に２社撤退） ②設置数：６か所→６か所 ③広告収入料：372,570円→481,800円 ※設置場所による広告料の違いにより、設置数が同数でも収入料が異なります。	4	3	3
9-⑨	雨水ポンプ場における運転、維持管理業務の民間委託拡充に向けた検証を行います。	民間委託前と同様に運転、維持管理業務を行えるよう監督します。 民間委託前と同様に降雨時の対応や日常の維持管理業務の実施状況を確認し、雨水ポンプ場の民間委託拡充に向け検証しました。	4	4	4

9-⑩	人材育成や技術継承を行い、組織力の向上を図ります。	・新たに上下水道局に配属された職員を対象に、上下水道局各課の業務を紹介する新入職員研修会を実施します。 ・職場環境の整備等を図るため、職員研修会を実施します。 ・職員の安全衛生意識の高揚を図るため、安全衛生研修会を実施します。 ・新たに上下水道局に配属された17名の職員を対象に、上下水道局各課の業務を紹介する新入職員研修会を5/26に開催しました。 ・職員の安全衛生意識の高揚を図るため、2/19に安全衛生研修会「まだ大丈夫が危ない？自分でできるメタボ対策！今から始める健康習慣講座」を実施し、33人の参加がありました。	4	4	4
9-⑪	公民連携の新たな手法の活用を検討します。	枚方市の公民連携プラットフォームを活用して民間提案の募集を行うなど、新たな公民連携の手法の活用を検討します。 ・下水道施設の維持管理等における公民連携手法の導入に向けて、現状の分析と課題の整理を行うと共に対象の施設、業務、事業手法等の検討をするため、枚方市PPP/PFI手法導入可能性調査業務委託を実施しました。	3	3	4
				（具体的取組達成状況 平均値）	4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

下水道事業を持続するための基盤づくり

１０	積極的な広報活動	施策評価	A
取り組みの方向性	●下水道に関する取組や経営状況について情報発信を行い、積極的な広報活動に取り組みます。	評価理由 広報ひらかたに上下水道局の特集記事を掲載し、「Water通信」を全戸配布するなど積極的な広報活動に努めているため、「A」評価としました。	

指標

指標名		R3年度末（基準）	前々年度実績値	前年度実績値	R7年度実績値	目標値（R10）	評価	説明
—	—	—	—	—	—	—	—	—

具体的取組

取組内容		R7年度 目標 R7年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
10-①	下水道事業全般の情報発信（広報ひらかた、ホームページ、SNS、出前講座等）を実施します。	・下水道事業について、市民に広く周知するため、「下水道の日」に合わせ、情報発信を行います。また、マンホールカードの配布を行います。 ・小中学校や市内の団体に対して、出前講座を実施します。 ・広報ひらかた８月号において特集記事を掲載、上下水道局のホームページをリニューアルしたほか、上下水道局広報誌「Water通信」を全戸配布するなど、広報活動に努めました。 ・下水道事業を市民に広く周知するため、「下水道の日」に合わせ、「9月10日は下水道の日」「大雨時は汚水排水量の削減を」「下水道への接続のご協力を」について、情報発信を行いました。また、楽しみながら下水道事業の理解・関心を深めるため、マンホールカードを市民等に配布しました。 ・小学校と市内の団体に対して、出前講座6件（「意外とおいしい枚方の水」と「ひらかた下水道ばなし」）を実施しました。	4	4	4
				（具体的取組達成状況 平均値）				4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

下水道事業を持続するための基盤づくり

１１	環境対策と社会目標の実現	施策評価	A
取り組みの方向性	●「SDGs」、「Society5.0」、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」などの社会目標の実現に向けて、下水道事業を通じて持続可能な社会をめざします。	評価理由 エネルギー削減目標は一部達成できませんでしたが、下水道事業から発生するリサイクル可能資源については積極的なリサイクルに努め、水銀灯のLED化など環境対策に取り組んでいるため、評価を「A」としました。	

指標

指標名		R3年度末（基準）	前々年度実績値	前年度実績値	R7年度実績値	目標値（R10）	評価	説明
11-(1)	建設副産物リサイクル率（%）	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	再生資源化施設搬出量／建設副産物発生量×100
						（指標評価 平均値）	4	

具体的取組

取組内容		R7年度 目標 R7年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
11-①	建設副産物等の再生資源として有効利用します。	現場で発生する建設資材について、再資源化施設に搬出します。 工事現場でのアスファルトやコンクリートがらの発生量1,017tについて、有効利用のためリサイクル施設への搬出を行いました。	4	4	4
11-②	施設の修繕・更新時における環境負荷低減に取り組みます。	サダポンプ場、藤本川ポンプ場、犬田川ポンプ場のLED化に取り組みます。 工事で使用する建設機械については排出ガス対策型を使用します。 サダポンプ場、藤本川ポンプ場、犬田川ポンプ場の水銀灯をLED照明に取り換えました。 工事で使用する建設機械については排出ガス対策型を使用しました。	4	4	4

11-③	施設及び公用車のエネルギー削減に取り組み、二酸化炭素排出量の削減に努めます。	施設及び公用車のエネルギー使用量について、前年度を基準に1％削減を目標に掲げ、二酸化炭素排出量の削減に努めます。 【施設のエネルギー（庁舎・春日事務所・北部別館）】 ・電気使用量は前年度実績326,101kWhのところ319,623kWhで2.0%削減を達成しました。 ・ガス使用量は前年度実績29,145㎥のところ29,418㎥で0.9%増加となり未達成でした。 【公用車のエネルギー】 ・ガソリン使用量は前年度実績22,881Lのところ20,832Lで9.0%削減を達成しました。 ・軽油使用量は前年度実績9,826Lのところ9,418Lで4.2%削減を達成しました。	3	3	3
11-④	下水道ビジョン2022に関する各課の計画目標・取組内容の実現による「SDGs」、「Society5.0」、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」等を実現します。	市下水道排水設備指定工事店の指定手続き等の更なるオンライン利用者数増に向け、各工事店に対し、文書や口頭により、継続的な周知を行います。 R5年度から運用を開始した市下水道排水設備指定工事店の指定手続き等のオンライン利用者数増に向け、通知文やメールに、オンライン申請の案内および読取コードを記載するなど、オンライン申請にアクセスしやすい環境を整えました。しかし、更新手続きのオンライン申請の割合については、66%（昨年度より9%減）になりました。	4	4	3
		「上下水道局の公用車の電動化に関する方針」に係る導入計画に基づき、公用車の電動車化に取り組みます。※R7年度は導入予定がありません。 R７年度は計画を前倒し、２台の更新を行い、公用車の電動化に取り組みました。	4	4	4
				（具体的取組達成状況 平均値）	4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。